

# 令和元年度 事業報告

## 事業の概要

本年度の事業の概要は次の通りであります。

### 1、研究助成(公募)

公衆衛生の向上及び生活環境の保全を促進させる。  
研究や活動を行っている個人又は団体に対し助成金を支給  
今年度は下記のテーマに関連する研究を助成対象としました。

#### ①「感染症及び外来生物」

- ・募集期間 4月～12月
- ・応募件数 26件
- ・助成支給件数 18件 (100万円/件)

「蚊の防除に向けた蚊の飛行性能に関する研究」

千葉大学 助教 中田敏是

「南九州・南西諸島の野生動物におけるマダニ媒介性人獣共通感染原虫の分子疫学調査」

鹿児島大学 准教授 正谷達磨

「ウイルス媒介蚊に感染している共生細菌の多様性の解明とその応用」

国立感染症研究所 主任研究官 新井 智

「カメムシに殺虫剤抵抗性を与える共生細菌の生育を抑制する植物乳酸菌の探索」

広島大学 大学院生 スリジャーナ シャキヤ

「僻地における蚊の捕集トラップ用誘因装置の実用化への探索」

防衛医科大学 助教 江尻寛子

「マスト細胞による抗マダニ免疫獲得メカニズムの解明」

岡山大学 助教 吉川宗一郎

「薬用植物と植物由来乳酸菌とのコラボレーションによる有害節足動物駆除技術の開発」

広島大学 特任准教授 野田正文

「透明化技術を用いたマダニ体内の活性酸素種ならびに病原体動態の可視化方法の確立」

鹿児島大学 教授 田仲哲也

「国内に生息する蚊におけるアルポウイルスおよび新規ウイルスの網羅的探索」

北海道大学 講師 大場靖子

「上田城下の門前町における蚊類幼虫・成虫の分析データから構築するシミュレーションモデルの開発」

信州大学 教授 平林公男

「衛星昆虫に対する成長制御物質を産生する植物乳酸菌および麹菌の探索とその応用」

広島大学 特任助教 ナンダライ タンシーツウォ

「環境にやさしいヒアリ忌避剤の開発を目的とした海洋生物由来含ハロゲン化合物の探索」

静岡理工科大学 講師 鎌田 昂

「天敵微生物を用いた特定外来生物の除去」

県立広島大学国際交流センター センター長 森永 力

「特定外来生物ツマアカスズメバチの化学的防除方法の開発」

国立環境研究所 任期付研究員 坂本洋典

「本邦マダニ由来細胞株の樹立と各種病原体の感受性」

岡山理科大学 准教授 楯田龍星

「脂質輸送機構を介したアルボウイルスの蚊での体内輸送と経卵巣感染機構の解明」

岐阜大学 助教 西山祥子

「防疫のためのフラビウイルス検出系の確立」

京都府立医科大学 講師 大道寺 智

「日本におけるパプロフスキーマダニの侵襲状況と保有病原体の解明」

国立感染症研究所 主任研究官 新倉 綾

## 2、奨学金事業

公衆衛生の向上や生活環境の保全を進める人材育成のため、国内の大学院生とアセアン諸国からの留学生に対し奨学金を支給した。

・平成31年4月より奨学生6名に月額5万円給付実施